

平成21年度事業報告書

学校法人 二松學舎

目 次

I	法人の概要	1
II	事業の概要	5
III	財務の概要	14
	監査報告書	22

I. 法人の概要

1. 概要

学校法人二松学舎（以下本学という）は、東京都千代田区の九段キャンパスと千葉県柏市の柏キャンパスに、文学部、国際政治経済学部（大学院を含む）の2学部からなる二松学舎大学と二松学舎大学附属高等学校および二松学舎大学附属沼南高等学校を設置している。本学は、明治10年に漢学塾二松学舎として開校以来、平成19年10月に創立130周年を迎え、同20年には附属高等学校が60周年を、同21年には附属沼南高等学校が40周年を迎えた。

設置する学校と学部・学科等の概要は以下のとおりである。

2. 所在地

学校法人二松学舎

102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

(1) 二松学舎大学

九段キャンパス

102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

柏キャンパス

277-8585 千葉県柏市大井2590番地

(2) 二松学舎大学附属高等学校

102-0074 東京都千代田区九段南2丁目1番32号

(3) 二松学舎大学附属沼南高等学校

277-0902 千葉県柏市大井2590番地

3. 設置する学校・学部・学科等の概要

(1) 二松学舎大学

大学院

文学研究科

国際政治経済学研究科

文学部

国文学科

中国文学科

国際政治経済学部

国際政治経済学科

(2) 二松学舎大学附属高等学校

(3) 二松学舎大学附属沼南高等学校

4. 入学定員・学生数等の状況

<大学院>

(単位:人)

研究科	専攻	博士前期課程(修士課程)			博士後期課程(博士課程)		
		入学定員	収容定員	学生数	入学定員	収容定員	学生数
文学研究科	国文学専攻	16	32	20	5	15	17
	中国学専攻	16	32	16	5	15	14
	計	32	64	36	10	30	31
国際政治経済学研究科	国際政治経済学専攻	10	20	27	—	—	—
合計		42	84	63	10	30	31

<学部>

(単位:人)

学部	学科	入学定員	収容定員	学生数
文学部	国文学科	260	1,040	1,318
	中国文学科	140	560	651
	計	400	1,600	1,969
国際政治経済学部	国際政治経済学科	200	800	1,002
合計		600	2,400	2,971

<高等学校>

(単位:人)

学校名	学科	入学定員	収容定員	生徒数
二松学舎大学附属高等学校	全日制普通科	300	900	780
二松学舎大学附属沼南高等学校	全日制普通科	249	747	698
合計		549	1,647	1,478

(注) 人数は平成 21 年 5 月 1 日現在の値を示す。

5. 役員等・教職員の概要

(1) 役員等・教職員数

- ①役員等 理事 12人 (うち、理事長1人、常任理事2人)
 監事 2人
 評議員 30人

②教職員

(単位:人)

教員	二松学舎大学	76
	二松学舎大学附属高等学校	37
	二松学舎大学附属沼南高等学校	36
	計	149
職員	二松学舎大学	76
	二松学舎大学附属高等学校	4
	二松学舎大学附属沼南高等学校	3
	計	83

(注) 人数は平成 21 年 5 月 1 日現在の値を示す。

表中の教員には非常勤教員を含まない。非常勤教員の人数は、二松学舎大学 211 名、二松学舎

大学附属高等学校 24 名、二松学舎大学附属沼南高等学校 28 名である。

(2) 役員

役 職	氏 名
理 事 長	大 山 徳 高
常 任 理 事	水 戸 英 則
常 任 理 事	渡 辺 和 則
理 事	橋 本 喜 一
理 事	木 村 誠 次
理 事	深 井 信 正
理 事	吉 崎 一 衛
理 事	関 保 典
理 事	小 林 公 雄
理 事	野 田 恒 雄
理 事	鈴 木 朝 生
理 事	西 尾 理 弘
監 事	笠 原 忠 興
監 事	千 葉 秀 悦

(3) 評議員

氏 名	
渡 辺 和 則	大 山 徳 高
橋 本 喜 一	笥 敏 子
木 村 誠 次	平 田 雅 利
小 林 公 雄	大 地 武 雄
江 藤 茂 博	関 保 典
鈴 木 朝 生	辰 巳 正 明
吉 崎 一 衛	齊 藤 定 市
林 武 志	大 橋 洋 治
椎 木 伸 治	藤 野 健 一
野 田 恒 雄	西 尾 理 弘
井 上 和 男	水 戸 英 則
五十嵐 清	中 津 井 泉
舘 野 宏	渡 邊 了 好
中 山 政 義	小 出 秀 文
深 井 信 正	野 島 透

(注) 平成 21 年 5 月 1 日現在

(4) 大学・両附属高等学校の主要役職者

役 職	氏 名
二松学舎大学	
学 長	渡 辺 和 則
副学長	林 武 志
大学院文学研究科長	家 井 眞
大学院国際政治経済学研究科長	鈴 木 朝 生
文学部長	江 藤 茂 博
国際政治経済学部長	鈴 木 朝 生
附属図書館長	長 谷 川 日 出 世
国際交流センター長	佐 藤 晋
情報センター長	山 口 直 孝
教育開発センター長	松 葉 幸 男
キャリアセンター長	金 子 茂
東アジア学術総合研究所長	吉 崎 一 衛
学務局長	佐 藤 一 樹

役 職	氏 名
二松学舎大学附属高等学校	
校 長	橋 本 喜 一
教 頭	齋 藤 昭
二松学舎大学附属沼南高等学校	
校 長	木 村 誠 次
副 校 長	椎 木 伸 治
教 頭	中 條 保 夫

(注) 平成 21 年 4 月 1 日現在

(5) 事務組織の主要役職者

役 職	氏 名
二松学舎大学	
事務局長	小 林 公 雄
総務・人事部長	五十嵐 清
総務・人事部付部長	小 町 邦 明
企画・財務部長	野 田 恒 雄
教学部長	井 上 和 男
柏教学部長	高 柳 幸 雄
附属図書館事務部長	成 田 修 一
キャリアセンター事務部長	神 河 秀 春
附属高等学校	
事務長	岡 村 幸 男
附属沼南高等学校	
事務長	大 淵 俊 明

(注) 平成 21 年 4 月 1 日現在

6. 最近の入学者数、在籍者数、納付金、教職員数の状況

(1) 入学者数

(単位:人)

		19年度	20年度	21年度
大 学	大学院	31	43	33
	学部	723	747	765
附属高等学校		292	250	267
附属沼南高等学校		199	270	250
計		1, 245	1, 310	1, 315

(2) 在籍者数

(単位:人)

		19年度	20年度	21年度
大 学	大学院	93	95	94
	学部	3, 041	2, 997	2, 971
附属高等学校		729	742	780
附属沼南高等学校		608	668	698
計		4, 471	4, 502	4, 543

(3) 1人当り学生生徒等納付金 (平成 21 年度)

(単位:千円)

			入学金	授業料	施設費等	計
大 学	大学院	前期・修士	250	650	100	1, 000
		後期・博士	250	650	70	970
	学部	300	730	200	1, 230	
附属高等学校			200	336	186	722
附属沼南高等学校			150	252	253	655

(4) 本務教職員数

(単位:人)

	19年度	20年度	21年度
大学教員	78	78	76
高校教員	75	73	73
事務職員	86	88	83
計	239	239	232

(注) 各年度 5 月 1 日現在

教職員数は、①学生数に対応する基本的な教職員数の維持、②大学院の教育・研究のための適正人員の確保、③教育・研究支援体制の充実を視野に入れた適正人員の確保、④専任職員と補助職員の業務内容などの雇用制度等を基に決定している。

II. 事業の概要

1. 法人(理事会・評議員会など法人事項に係る管理運営)

(1) 附属沼南高等学校創立 40 周年記念事業の実施

本年度は附属沼南高等学校が創立 40 周年を迎え、柏市文化会館において式典の挙行、記念コンサートの開催、記念祝賀会を三井ガーデンホテル柏において実施したほか、40 周年記念誌の発行などの各種記念事業を実施した。

(2) 施設の整備

①大学九段キャンパス

大学機能の九段キャンパスへの集約のため、平成 20 年 6 月より建設をはじめた新校舎「九段 3 号館」が平成 21 年 7 月に竣工した。また、教室・学生食堂・ラウンジなど九段 1 号館の改修を併せて行い、教育研究環境の充実を図った。

②附属高等学校

附属高等学校では、図書室の書架の増設及び耐震補強を実施したほか、柏合宿所および野球グラウンドの整備を行った。

③附属沼南高等学校

平成 17 年度より施設の整備改修工事を進めており、東校舎騒音防止・改修工事、南校舎耐震化・改修工事、防災機能強化、西校舎騒音防止工事に続き、本年度は南校舎の騒音防止工事と併せて中学校併設準備のための改修工事を実施し平成 22 年 3 月に完了した。

(3) イベント

① 『『論語』の学校 - RONGO ACADEMIA -』の開催 (11 月 28 日)

会場：九段校舎中洲記念講堂 参加者：462 名

「君子を目指せ 小人になるな-論語にみるリーダー像」

SBI ホールディングス(株)代表取締役執行役員 CEO 北尾吉孝

「公治長の解鳥語について－経学と説話」 本学名誉教授 戸川芳郎

②「孔子ゆかりの地」写真展の開催（11月28日～12月21日）

会場：九段校舎中洲記念講堂ホワイエ

③大学資料展示室企画展等

■九段キャンパス

「和本への誘い」（4月14日～4月30日）

「漢籍への誘い」（5月19日～5月31日）

「近・現代の筆跡」（6月23日～7月4日）

「創立者中洲三島毅と二松学舎」（7月29日～8月22日）

「書簡あれこれ」（10月1日～10月24日）

「近代国語辞書への道程」－特に外国語辞書を通して－（11月20日～12月19日）

「碑法帖への誘い」 1月19日～2月6日

■柏キャンパス（附属図書館）

「二松学舎の世界」－主に創立から専門学校時代まで－（4月1日～4月24日）

「拓本の世界」（6月29日～7月15日）

「和本への誘い」（10月19日～10月31日）

講演

○「拓本の世界」－特に三井聴氷閣と書道博物館について－（7月11日）

東京学芸大学非常勤講師（木鶏室） 伊藤滋

○「平安朝の恋歌」 本学文学部教授 山崎正伸

2. 大学（学部・大学院）

（1）施設・設備の整備

①九段キャンパスの整備

大学機能の九段集約のため、東京都千代田区九段南に平成20年6月より建築していた新校舎「九段3号館」が平成21年7月に竣工し使用を開始した。

②柏キャンパスの整備

柏キャンパスでは、来校者の利便性を高めるため駐車場の舗装整備や照明設備の設置などを行った。また、柏7号館（学生会館）の完成により不要となった既存のプレハブ（簡易建物）を撤去した。

③九段学生食堂および学生ホールの拡張

平成22年度からの大学の九段集約に伴い、学生食堂および学生ホールの座席数拡張等を行った。

④図書館の整備

九段図書館および柏図書館の空調機器の整備、柏図書館ダムウェーター（資料運搬用昇降リフト）の整備を行った。また、ライブラリーサーバーの導入により、九段・柏の両キャンパスから

デジタルデータの利用が可能となるなど利便性の高い情報利用環境を整備した。

⑤情報システムの整備

情報ネットワークの基幹システム更新を2年計画で実施している。本年度はネットワーク・メール・ホームページの各サーバー全台と、帯域制御装置一式の更新を行うと共に、ネットワーク回線の増速化を実施した。

(2) 教育・研究の推進、環境の整備

①「日本漢文教育研究プログラム」

平成16年度に採択された21世紀COEプログラムは平成21年3月に5年間の研究支援期間が終了し、これまで、漢文文献資料の調査・収集とデータベース化、情報公開、国際シンポジウムや海外研究者の招聘による講演会・公開講座・講習会の開催など、広範で活発な研究教育活動を行い、人材育成にも力を注いでいる。

本年度から「日本漢文教育研究プログラム」として、ヨーロッパ、アジア諸国を中心に海外で漢文講座を展開し、引き続きCOEの事業を推進している。本年度は、海外での漢文講座をオックスフォード大学（イギリス・2月18日～21日）、カ・フォスカリ大学（イタリア・9月28日～10月2日）、チュラロンコーン大学（タイ・12月21日～30日）、ベトナム国家大学（ベトナム・9月8日～10日）でそれぞれ実施し、また、ハイデルベルク大学（ドイツ）、カ・フォスカリ大学（イタリア）ではインターネットによる講座も行っている。

<公開講座>

特別講座

「江戸の漢文」月曜 前期・後期 各15回

「江戸の漢詩」木曜 前期・後期各10回

演習講座

「漢籍書誌学」水曜 前期・後期 各15回

「古文書解読講座」火曜 前期・後期 各15回

「『中世随筆』の研究」水曜 前期・後期 各15回

「古訓読解演習」火曜 前期・後期 各15回

集中講座

「江戸時代の漢籍受容」7月18日・25日

「漢籍調査と分類」12月12日・19日

研究会

「第1回和習漢文を読む研究会」（9月7日～9月10日） 九段校舎1号館708教室

「第2回和習漢文を読む研究会」（12月21日～12月25日） 九段校舎1号館602教室

<刊行物>

「雙松通訊」 第12号・第13号

「日本漢文学研究」 第5号 等

「日本漢文關聯文献目録稿本」

②教員免許状更新講習の実施

教育職員免許法の改正に基づき、平成 21 年度より教員免許更新制度が導入された。これに伴い、本学卒業生教員をはじめ多くの教員を対象に免許状更新講習を開設し、教員として必要な最新の知識技能の提供と各教科の指導法やその背景となる専門的内容、生徒指導法などを主な内容として実施した。

③海外協定校への相互訪問等

協定校との関係をより堅固なものとするため、教職員の定期的な相互派遣を行っている。本年度は中国・北京大学歴史学系より孟愛華教授が 11 月 8 日～13 日の日程で本学に来訪され、講演会、教員交流が行われた。また、本学からは山口直孝文学部教授が中国・北京大学を 3 月 19 日～24 日の日程で表敬訪問した。

④入学前教育・初年次教育の充実

新入生のモチベーションを高め、教育効果をより確かなものとするため、文学部・国際政治経済学部両学部において A O 入試・推薦入試の合格者に対し「入学前教育」を、入学後の新入生に対し「初年次教育」や講演会の開催をはじめ学部ごとの設定課題などを実施した。

⑤シンポジウム・講演会・展示会等の開催

本年度も国文学などの各種シンポジウムを開催し、本学の教育研究成果を学外へ広くアピールすると共に学内の活性化を図っている。また、図書館および大学資料展示室では年間を通して各種企画展を開催している。

■文学部国際シンポジウム

「東アジアを漂流する物語—台湾・韓国・日本の『花より男子』」(マンガ・映画・ドラマ・アニメ) (12 月 19 日)

会場：九段校舎 1 号館中洲記念講堂

■東アジア学術総合研究所

国際シンポジウム

「唐甄(とうけん)思想の現代的意義」(9 月 19 日・20 日) 九段校舎 1 号館 201 教室
研究会

「現代国際秩序の形成・展開と英米関係」(7 月 5 日) 明治学院大学白金台キャンパス
共同研究

「中国の農民工問題への社会学的・経済学的接近」

「近年出土殷周時代青銅器銘文の考釈」

「現代国際秩序の形成・展開と英米関係」

「二松学舎大学の教育体系史—東アジアにおける日本の視座—」

■公開学術講座「二松学舎の学芸」

二松学舎の学術 会場：九段校舎 201 教室

「三島中洲」(5 月 16 日) 本学客員教授 松川健二

「橘純一」(6 月 20 日) 本学准教授 町泉寿郎

「平塚らいてう」（7月11日） 日本女子大学教授 岩淵宏子

■文学部

国文学科

「九段で平家を聴く。」（1月26日） 会場：九段校舎1号館中洲記念講堂

講演

「熊谷はなぜ敦盛を殺せないのかー敦盛最後を読むー」青山学院大学教授 佐伯真一
極楽世界への誘いー『平家物語』巻第十「千手前」ー

法政大学教授 スティーブン・G・ネルソン

演奏

平曲「千手前」前田流平家詞曲相伝 新井泰子

中国文学科

「モンゴルの風 馬頭琴レクチャーコンサート」（2月6日） 会場：柏校舎1号館

朗読と音楽 モンゴル民話「スーホの白い馬」、馬頭琴体験、モンゴルの音楽と文化ほか

■九段3号館竣工記念 区民講座 会場：九段校舎3号館

第1回「中国を巡る漢詩の旅」ー先人は何を考えたのか（1月23日）本学教授 吉崎一衛

第2回「現代社会と家族」ー親子関係の成立をめぐる（2月27日）本学教授 土屋 茂

第3回「自分史の試み」ー「私」をどのように表現するのか（3月20日）本学教授 江藤茂博

■漢詩コンクールの開催（大学生・高校生対象）

作詩部門高校生の部・作詩部門大学生の部・鑑賞文部門（各部門 最優秀賞1名 優秀賞2名 佳作5名 入選5名） 団体奨励賞1校 応募総数：545件

■ホームカミングデー（大学・九段校舎 8月2日）

吹奏楽演奏会、講演会「三島中洲の人と詩について」 本学元学長・名誉教授 石川忠久

懇親会 参加者：138名、卒業生作品展（7月27日～8月2日）

⑥図書館の充実等

附属図書館では、蔵書の充実を図ると共に本学所蔵貴重資料のマイクロフィルム化及びデジタル化、紀要・学術雑誌のデータベース化、法人資料のデジタル化を年次計画で実施している。

⑦大学の授業に関するアンケートの実施

大学の自己点検・評価活動の一環として、学生による授業アンケートを実施した。大学の授業に対する考えなどを知ることにより、今後の改革に役立てる。

⑧学術研究支援等の充実

「創立130周年記念公開学術講座」の開催や研究者育成支援のため、教育開発センターでは、現職教員に研修・再教育の場を提供し、教員養成の充実を目的とした国語教育研修会を8月5日（水）～7日（金）の日程で開催した。また、8月8日（土）には第16回教育研究大会を開催し、新学習指導要領や深刻化する社会問題および教育問題についての協議や分科会を行った。東アジア学術総合研究所では、ワークショップの開催など共同研究プロジェクトの推進および研究成果報告書の刊行を支援している。

柏キャンパスでは、国語研修講座「〈日本語学〉を国語科教育に活かす～ことばで伝えるしくみと工夫・伝わることばのしくみと工夫～」を柏市教職員を対象に 7 月 29 日（水）に小学校部会を、8 月 26 日（水）に中学校部会を開催した。

< 刊行物 >

「二松学舎大学附属図書館 季報」第 73 号～第 76 号 二松学舎大学附属図書館

「教育開発だより」第 15 号～第 17 号 二松学舎大学教育開発センター

「二松学舎大学国際政経論集」第 16 号 二松学舎大学国際政治経済学部

「二松学舎大学論集」第 53 号 二松学舎大学文学部

「二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊」第 40 集 二松学舎大学東アジア学術総合研究所

「二松」第 24 集 二松学舎大学大学院文学研究科

「国際交流」第 23 号・第 24 号 二松学舎大学国際交流センター

「二松学舎新聞」第 47 号～第 49 号 学校法人二松学舎

「二松短歌」第 48 号 二松短歌会

「二松俳句」第 30 号 二松俳句会

「學」第 24 号・第 25 号 学校法人二松学舎 等

(3) 学生への支援

①奨学金制度の拡充

学生生徒の就学意欲の維持、退学者の減少や学生生徒募集のためにも、奨学金制度の拡充が重要であり、大学・附属高校・沼南高校の学校別に奨学金制度を整理し、給付のほか貸与奨学金制度を平成 18 年度から開始した。また、奨学基金として受け入れた寄付金は、毎年度奨学金の基金である第 3 号基本金に組み入れ増額することとしている。

②就職支援・留学生支援

キャリアセンターでは、学生の就職活動を支援するため、入学直後のガイダンス、就職対策として自己発見（職業適性）検査の実施、就職筆記対策、数学特訓講座、「公務員試験対策講座」や「教員採用試験対策講座」の開講、学内合同企業説明会、企業研究セミナーや業界セミナーの開催、このほか「社長弟子入り三日間」、「経営者と語る」などの特別講座を行った。

国際交流センターでは、短期海外語学研修（中国・北京大学）の実施、海外協定校への派遣留学生および海外協定校からの交換留学生に対する就学支援、その他国際交流イベント（研修会、留学生スピーチコンテスト等）を実施した。

③キャリア教育の充実

インターンシップ、キャリア教育、資格教育の充実、学校と外部機関との連携体制の確立や企業との連携による就職適正検査の実施、本学教職課程による『教員への道』の刊行など、出口準備教育・教職者の育成に関する充実・強化を図った。平成 21 年度は「無業者 5%未滿を達成する「キャリア教育」と就職支援の再構築」への取り組みが、文部科学省の『大学教育・学生支援プログラム』に採択された。

(4) 社会貢献

①生涯教育への取り組み

九段・柏の両校舎において従来から開講している無料公開講座のほか、エクステンションカレッジ「二松塾」(有料公開講座)を開講し、生涯教育・教育振興事業として推進している。本年度は、俳句・短歌・近世文学・歌舞伎・古文書・漢詩・中国語・韓国語・書道など春期 12 講座、秋期 13 講座を開講した。

◆公開講座

統一テーマ「探究心をはぐくむ」

【1】九段キャンパス 8月3日(月)～7日(金)

〔教養講座〕

- ①「今からでも間に合う赤壁(レッドクリフ)」本学専任講師 伊藤慎太郎
- ②「地球温暖化のウソとホント」本学教授 岩崎愛一
- ③「江戸落語と上方落語」本学専任講師 中川桂
- ④「中世和歌表現の魅力ー歌人・藤原定家の改作を通してー」本学専任講師 五月女肇志
- ⑤「印譜と書誌学」本学教授 高山節也

〔書道講座〕

- ①「書の芸術性へのサゼッション」本学教授 源川彦峰
- ②「漢字の誕生ー甲骨文字から金文までー」本学准教授 高澤浩一
- ③「愛蘭親竹・書と蘭ー実技と観賞ー」本学名誉教授 難波清邱
- ④「詩箋の書(Ⅱ)」本学講師 伊藤忠綱
- ⑤「唐様から和様へ、そして仮名へ」本学講師 杉浦華桂

【2】柏キャンパス 9月7日(月)～11日(金)

〔教養講座〕

- ①「メディア論からのサブカルチャー文芸史ー少年少女の表現文化」本学教授 江藤茂博
- ②「老舎と日中戦争」本学教授 武永 尚子
- ③「世界金融・経済危機と日本の今後」本学教授 手島茂樹
- ④「ストレスとスポーツ」本学教授 白石まりも
- ⑤「韓国ドラマに見る恋愛論」本学教授 塩田今日子

〔書道講座〕

- ①「見える日本の『書状』ー藤原佐理書状を中心として」本学特別招聘教授 福島一浩
- ②「『蘭亭叙』を科学するー王羲之の呼吸と筆意の研究ー」本学講師 内田征志
- ③「篆書・隸書をたのしもう」本学講師 石野黎峰
- ④「山岡鐵舟の書」本学講師 寺内眞道
- ⑤「草書の典範 王羲之『十七帖』の書美」本学講師 今川佳香

◆二松塾

【春期】5月11日(月)～8月1日(土)

- ①日本を学ぼう（俳句・短歌・近世文学・歌舞伎鑑賞・古文書入門）
- ②中国・韓国を学ぼう（漢詩・中国語入門・韓国語韓国文化入門）
- ③書を学ぼう（総合・草書・篆書）

□九段キャンパス（9講座）

- 俳句　－俳句を楽しく詠う－　俳句「かびれ」主宰　大竹多可志
- 短歌　－「死生観」の歌に学ぶ生き方－　短歌文芸誌「ばにあ」代表　秋元千恵子
- 近世文学　－「曾根崎心中」－　本学名誉教授　青山　忠一
- 歌舞伎鑑賞　－歌舞伎に見る親子の諸相－　本学講師　白井雅彦
- 古文書入門　－読み方のコツを知る－　東海大学講師、文学博士　下重清
- 漢詩　－漢詩への招待－　本学元学長・名誉教授　石川忠久
- 中国語入門　－はじめての中国語－　本学名誉教授　久保田美年子
- 韓国語・韓国文化　－韓国語ステップアップ！－　本学附属高校講師　伊藤浩美
- 書道（草書）－祝允明の草書『前後赤壁賦』を学ぶ－　書方四季会主宰　今川鷗洞

□柏キャンパス（3講座）

- 歌舞伎鑑賞　－戯劇華江都遊覧　かぶきしばみ・えどひとめぐり－　本学講師　白井雅彦
- 書道（総合）　－書に親しみ楽しんで書く－　本学名誉教授　難波清邸
- 書道（篆書）　－はじめての篆書－　本学講師　石野黎峰

【秋期】10月5日（月）～12月22日（火）

□九段キャンパス（13講座）

- 短歌　－歌人・上田三四二の挑戦－　短歌文芸誌「ばにあ」代表　秋元千恵子
- 近世文学　－「冥途の飛脚」を読む－　本学名誉教授　青山　忠一
- 歌舞伎鑑賞　－歌舞伎悪漢列伝（じ・あうとさいだあず）－　本学文学部講師　白井雅彦
- 古文書入門　－殿様たちの結婚事情－　東海大学講師、文学博士　下重清
- 漢詩　－漢詩への招待－　本学元学長・名誉教授　石川忠久
- 中国語入門　－はじめての中国語Ⅱ－　本学名誉教授　久保田美年子
- 中国食文化　－中国の食卓から見る伝統と新しい流れ－　中国料理研究会代表　木村春子
- 韓国語　－TV・歌から学ぶ韓国語－　本学文学部講師　秋賢淑
- 韓国語・韓国文化　－韓国語ステップアップ！Ⅱ－　本学附属高校講師　伊藤浩美
- 書道（総合）－書に親しみ小作品をつくる－　本学名誉教授　難波清邸
- 書道（草書）－空海「風信帖」の書美－　書方四季会主宰　今川鷗洞
- 書道（篆刻）－はじめての篆刻－　本学文学部講師　石野黎峰

□柏キャンパス（1講座）

- 歌舞伎鑑賞　－歌舞伎十八番を楽しみませんか－　本学文学部講師　白井雅彦

（5）学生募集対策

少子化が進む中で、文学部・国際政治経済学部とも学生募集広報活動を見直し、多方面から入学者選抜実施方法（入試種別・科目・日程等）を検討し、地方での大学説明会や学生募集広報、

地方入学試験を実施した。また、東京、千葉、埼玉、神奈川、茨城の各地区別に学生募集特別委員を配置し、関東地区の志願者獲得の精度を上げるべく学生募集対策の強化を図った。

3. 附属高等学校

(1) 中・長期将来計画の策定と段階的实施

生徒募集、教育目標、指導目標、進学対応など附属高校の中・長期改革案（第1期から第4期までの中・長期計画）を策定し10年計画により改革を推進している。本年度から計画の第2期として、進路指導の充実及び進学実績の引き上げ、クラブ活動の活性化、生活指導の重視など各種改善策を実施した。

(2) 学習環境の整備

図書室書架の増設および耐震補強工事、校内空調機の劣化部品の交換及び保守清掃など学習環境を整備を行った。

(3) 生徒募集対策

学校紹介DVDのリニューアルや効果的な広報活動を行い、志願者増加および定着化のため中学・塾等訪問スタッフの配置など緻密な募集対策を行った。

(4) スクールカウンセラーの配置

生徒の悩みや保護者の相談に対応するため、専門的知識を有するスクールカウンセラーを校内に配置し、教育相談対応や学園生活のサポートなどメンタルケアの充実を図った。

(5) チューター制の導入

進路指導の充実発展と生徒の進路意識の向上を目的に、チューター制（課外活動講師制）を導入した。他大学の学生をチューターに迎え、週2回、放課後に受験勉強や大学生活など生徒の相談に応じている。

(6) 学校運営協議会の設置

有識者及び近隣地域住民より附属高等学校に対する意見を聴取し、「学校評価」及び同校の経営・運営に資するため、学校運営協議会を設置した。

4. 附属沼南高等学校

(1) 創立40周年を迎え、以下の各種記念事業を実施した。

記念式典、祝賀会等（平成21年9月19日開催）

① 創立40周年記念式典

会場：柏市民文化会館大ホール 参列者：895名

② 創立40周年記念コンサート

歌手：島田歌穂 ピアノ：島健

③ 創立40周年記念祝賀会

会場：三井ガーデンホテル柏 参列者：144名

④ 創立40周年記念出版

「二松學舎大学附属沼南高等学校 40 年誌」

(2) 中・長期計画の策定と段階的实施

教科・進路・生徒各指導計画、施設の充実など、中・長期計画を策定するためのプロジェクトチームにより具体案を作成し、段階的に実施することとした。

(3) 中学校の併設

中・高を通じた教育の充実や生徒募集力の強化などの観点から中学校併設を計画しており、千葉県に設置認可申請中である。

(4) 奨学金制度

附属沼南高校では、本年度新たに授業料の減免に関する規程を定め、奨学制度の充実を図った。

(5) カリキュラムの充実

附属沼南高校では、新カリキュラムにより教育体系の更なる充実を図っている。また、一人ひとりの学力を確実にものとするため補習や特別講習授業を実施している。さらに受験に向けて、大手予備校のひとつである駿台予備校と連携し、様々な受験情報を提供し、模試・衛星授業などを通してより実践的な受験対策を行っている。

(6) 学習環境の整備

快適な教育環境の整備を推進すべく、施設設備の整備を計画に従って順次行っているが、本年度は南校舎の騒音防止工事を実施し平成 22 年 3 月に完了した。

(7) 教員室のパソコン整備

教育効果の向上、成績処理、セキュリティ対策等のため教員室のパソコンのリプレースを行う。

(8) 生徒募集対策

受験生向けの学校案内パンフレットのリニューアルや学校紹介 DVD の作成などのほか、入試広報部を中心に、広報活動、中学・塾等訪問スタッフの配置など緻密な募集対策を実施した。

(9) スクールカウンセラーの配置

生徒の悩みや保護者の相談に対応するため、専門的知識を有するスクールカウンセラーを校内に配置し、教育相談対応や学園生活のサポートなどメンタルケアの充実を図った。

(10) 国際交流

本校 1 年生と二松学舎大学の留学生との交流会を開催。オーストラリア、中国、韓国からの留学生との異文化交流を行った。

Ⅲ. 財務の概要

1. 施設設備の整備計画

(1) 大学

大学機能の九段キャンパスへの集約のため、平成 20 年 6 月より建設をはじめた新校舎「九段 3 号館」が平成 21 年 7 月に竣工した。また、教室・学生食堂・ラウンジなど九段 1 号館の改修

を併せて行い、教育研究環境の充実を図った。

(2) 附属沼南高等学校

①新体育館建築工事

附属沼南高等学校の老朽化した体育館を建て替えることとし、新体育館の建築工事が進行している。柏キャンパス入り口に面し、シンボリックな建物とすべく建設計画を推進中である。

②南校舎の整備

南校舎の騒音防止工事と併せて中学校併設準備のため教室等の改修工事を実施し、平成 22 年 3 月に完了した。

(3) 既存施設設備の整備

①大学九段校舎

九段 1 号館 1 階から地下への内階段増設、地下 1 階エントランス改修および照明工事
教室増設および改修工事
エレベータ運転改善工事
学生ホール電子掲示板設置
学生食堂座席の増設およびアメニティーの整備等

②柏校舎

柏 1 号館書道教室畳の張り替え
柏 2 号館学生ホール電子掲示板設置
駐車場のアスファルト舗装・街灯の設置等

③附属高等学校

図書室書架の増設・耐震補強工事、校内空調機の劣化部品交換及び保全整備等

④附属沼南高等学校

南校舎の防音工事、教室等改修工事等

2. 財務改革の推進

(1) 資金の効率的運用

運用に当たり、資産運用リスク管理体制を構築し、これに基づき慎重な運用を行い運用収入を確保した。

(2) 施設貸出しや有料公開講座の開設

施設の一般貸出や有料公開講座の春・秋の二期制による通年開講などにより収入の多様化を図った。

(3) 奨学金制度の充実と第 3 号基本金の増額

大学・附属高校・沼南高校別に奨学金制度を整理し、奨学金制度のさらなる充実のため、当年度奨学基金として受け入れた寄付金は、毎年度奨学金の基金である第 3 号基本金に組み入れ、増額することとしている。

(4) 格付けの取得

格付機関（㈱格付投資情報センター（R&I社））による法人の発行体格付評価を受け、引き続き「A -」（シングルAマイナス）の格付けを取得した。

3. 資金収支計算書（別紙1）
4. 消費収支計算書（別紙2）
5. 貸借対照表（別紙3）
6. 財産目録（別紙4）
7. 主な財務比率（別紙5）

資金収支計算書

平成21年4月1日から
平成22年3月31日まで

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,721,829,000	3,727,980,500	△ 6,151,500
手数料収入	126,243,000	137,687,420	△ 11,444,420
寄付金収入	57,300,000	56,439,927	860,073
補助金収入	1,050,452,000	1,027,449,249	23,002,751
国庫補助金収入	543,186,000	519,847,000	23,339,000
地方公共団体補助金収入	507,266,000	507,602,249	△ 336,249
資産運用収入	101,778,000	124,121,752	△ 22,343,752
資産売却収入	511,422,000	311,803,892	199,618,108
事業収入	6,005,000	6,005,300	△ 300
雑収入	50,923,000	50,728,270	194,730
借入金等収入	1,800,000	1,800,000	0
前受金収入	1,077,101,000	903,334,450	173,766,550
その他の収入	2,927,226,000	3,141,634,915	△ 214,408,915
資金収入調整勘定	△ 998,853,000	△ 1,232,084,755	233,231,755
前年度繰越支払資金	1,823,585,000	1,823,585,035	△ 35
収入の部合計	10,456,811,000	10,080,485,955	376,325,045
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	2,723,945,000	2,724,597,986	△ 652,986
教育研究経費支出	1,032,820,000	1,036,833,649	△ 4,013,649
管理経費支出	430,724,000	430,961,760	△ 237,760
借入金等利息支出	43,950,000	43,950,000	0
借入金等返済支出	250,000,000	250,600,000	△ 600,000
施設関係支出	2,038,457,000	1,480,092,887	558,364,113
設備関係支出	296,838,000	285,577,036	11,260,964
資産運用支出	39,974,000	562,377,810	△ 522,403,810
その他の支出	1,358,882,000	1,365,457,615	△ 6,575,615
資金支出調整勘定	△ 206,204,000	△ 255,563,793	49,359,793
次年度繰越支払資金	2,447,425,000	2,155,601,005	291,823,995
支出の部合計	10,456,811,000	10,080,485,955	376,325,045

消費収支計算書

平成21年4月1日から
平成22年3月31日まで

(単位 円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,721,829,000	3,727,980,500	△ 6,151,500
手数料	126,243,000	137,687,420	△ 11,444,420
寄付金	62,578,000	61,864,425	713,575
補助金	1,050,452,000	1,027,449,249	23,002,751
国庫補助金	543,186,000	519,847,000	23,339,000
地方公共団体補助金	507,266,000	507,602,249	△ 336,249
資産運用収入	101,778,000	124,121,752	△ 22,343,752
資産売却差額	7,371,000	7,371,000	0
事業収入	6,005,000	6,005,300	△ 300
雑収入	50,923,000	50,728,270	194,730
帰属収入合計	5,127,179,000	5,143,207,916	△ 16,028,916
基本金組入額	△ 1,098,657,000	△ 957,319,406	△ 141,337,594
消費収入の部合計	4,028,522,000	4,185,888,510	△ 157,366,510
消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	2,658,930,000	2,682,405,191	△ 23,475,191
教育研究経費	1,490,793,000	1,491,272,030	△ 479,030
管理経費	455,252,000	456,003,950	△ 751,950
借入金等利息	43,950,000	43,950,000	0
資産処分差額	32,729,000	371,215,926	△ 338,486,926
徴収不能引当金繰入額	186,000	0	186,000
消費支出の部合計	4,681,840,000	5,044,847,097	△ 363,007,097
当年度消費支出超過額	△ 653,318,000	△ 858,958,587	
前年度繰越消費収入超過額	2,241,040,000	2,241,040,253	
翌年度繰越消費収入超過額	1,587,722,000	1,382,081,666	

貸借対照表

平成22年3月31日

(単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	21,925,968,918	23,975,307,179	△ 2,049,338,261
有形固定資産	16,492,794,172	15,240,344,514	1,252,449,658
土地	3,959,266,520	3,959,266,520	0
建物	9,940,827,865	8,659,921,377	1,280,906,488
その他の有形固定資産	2,592,699,787	2,621,156,617	△ 28,456,830
その他の固定資産	5,433,174,746	8,734,962,665	△ 3,301,787,919
流動資産	4,958,383,143	3,084,054,042	1,874,329,101
現金預金	2,155,601,005	1,823,585,035	332,015,970
その他の流動資産	2,802,782,138	1,260,469,007	1,542,313,131
資産の部合計	26,884,352,061	27,059,361,221	△ 175,009,160
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	3,273,514,548	3,521,000,198	△ 247,485,650
長期借入金	2,053,400,000	2,302,000,000	△ 248,600,000
その他の固定負債	1,220,114,548	1,219,000,198	1,114,350
流動負債	1,526,006,218	1,551,890,547	△ 25,884,329
短期借入金	250,400,000	250,600,000	△ 200,000
その他の流動負債	1,275,606,218	1,301,290,547	△ 25,684,329
負債の部合計	4,799,520,766	5,072,890,745	△ 273,369,979
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	19,944,823,629	18,087,864,153	1,856,959,476
第2号基本金	0	900,470,070	△ 900,470,070
第3号基本金	454,926,000	454,096,000	830,000
第4号基本金	303,000,000	303,000,000	0
基本金の部合計	20,702,749,629	19,745,430,223	957,319,406
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	1,382,081,666	2,241,040,253	△ 858,958,587
消費収支差額の部合計	1,382,081,666	2,241,040,253	△ 858,958,587
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部、消費収支差額の部合計	26,884,352,061	27,059,361,221	△ 175,009,160

財 産 目 録

I 資産総額		26,884,352,061 円
内 基本財産		16,504,624,980 円
運用財産		10,379,727,081 円
II 負債総額		4,799,520,766 円
III 正味財産		22,084,831,295 円

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地	121,750.21 m ² 3,959,266,520 円
建物	53,796.99 m ² 9,940,827,865 円
図書	356,728 冊 1,840,465,414 円
教具・器具・備品	16,103 点 291,668,177 円
その他	472,397,004 円
2 運用財産	
現金預金	2,155,601,005 円
その他	8,224,126,076 円
資産総額	26,884,352,061 円
負債額	
1 固定負債	
長期借入金	2,053,400,000 円
その他	1,220,114,548 円
2 流動負債	
短期借入金	250,400,000 円
その他	1,275,606,218 円
負債総額	4,799,520,766 円
正味財産(資産総額－負債総額)	22,084,831,295 円

主な財務比率

1. 消費収支計算表関係比率

(%)

比率	計算式	評価の目安	本学(学校法人全体)					全国平均
			17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	20年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	▼	55.3	54.0	51.5	53.5	52.2	52.1
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	▼	72.9	74.7	75.4	76.9	72.0	97.7
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	△	24.2	26.4	25.7	26.4	29.0	34.4
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	▼	6.6	7.0	8.7	8.3	8.9	8.7
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	▼	0.6	0.6	0.9	0.9	0.9	0.4
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	△	13.0	11.6	13.0	9.5	1.9	1.2
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	▼	95.5	109.6	128.6	119.5	120.5	109.2
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	～	75.9	72.3	68.3	69.6	72.5	53.4
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	△	1.4	0.7	1.7	1.0	1.2	1.4
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	△	14.6	16.6	16.1	18.2	20.0	12.0
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	△	9.0	19.3	32.4	24.3	18.6	9.5
減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	～	8.8	8.1	8.0	7.8	9.5	10.1

2. 貸借対照表関係比率

(%)

比率	計算式	評価の目安	本学(法人全体)					全国平均
			17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	20年度
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	82.7	84.7	89.8	88.6	81.6	84.7
流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	△	17.3	15.3	10.2	11.4	18.4	15.3
固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$	▼	12.2	15.7	14.2	13.0	12.2	8.1
流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資金}}$	▼	5.7	5.0	5.9	5.7	5.7	5.4
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	△	82.2	79.3	79.9	81.3	82.1	86.4
内部留保資産比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{総負債}}{\text{総資産}}$	△	31.8	31.7	25.9	24.9	20.8	25.3
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{消費支出}}$	△	2.3	2.3	1.9	1.8	1.5	1.4
消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	△	16.3	13.7	11.3	8.3	5.1	-10.4
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	▼	100.6	106.8	112.3	109.0	99.3	98.0
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}+\text{固定負債}}$	▼	87.7	89.2	95.4	94.0	86.5	89.5
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	305.5	305.3	173.8	198.7	324.9	281.7
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	17.8	20.7	20.1	18.7	17.9	13.6
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	▼	21.7	26.0	25.1	23.1	21.7	15.7
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	△	354.7	298.9	139.3	185.0	238.6	394.6
退職給与引当預金率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	△	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	53.3
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	90.0	91.0	86.8	88.5	89.7	96.9
減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得額}}$	～	32.8	34.1	36.2	37.6	36.0	45.6

注「全国平均」は日本私立学校振興・共済事業団の集計による学生生徒数3千～5千人の107大学法人の平均を示す。

「評価の目安(「▼」低い値がよい、「△」高い値がよい、「～」どちらとも言えない)」は日本私立学校振興・共済事業団の資料による。

減価償却比率は図書を除く。

監査報告書

平成22年5月18日

学校法人 二松学舎

理事会 御中

評議員会 御中

学校法人 二松学舎

監事 笠原忠興 

監事 伊藤秀悦 

私たちは、学校法人二松学舎の監事として、私立学校法第37条第3項及び学校法人二松学舎寄附行為第11条の規定に基づいて、会計帳簿の実査等を行い、また理事会その他の会議に出席し業務の報告を聴取する等して、学校法人二松学舎の平成21年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)の業務及び財産の状況について監査を行いました。

監査の結果、私たちは財産目録及び計算書類(資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表並びに付属明細表)は学校法人会計基準(昭和46年文部省令第18号)に準拠しており、学校法人二松学舎の平成22年3月31日現在の財産状態及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めました。また、学校法人二松学舎の業務及び財産に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを確認しました。

以上